

一車列
表開時

餅水窩軍
店原谷浦

一
○九九九
○四三三
二九一一

四四四四
四〇七
四二六
四七

本紙定價の儀は
御送附可致候也

一ヶ月金參拾鎊
に有之遠隔の地へ別に郵税
金十三鎊を頂戴可仕候
明治卅七年一月廿八日
朝鮮日報社

露探狩り
黒潮

2 1 4 4 4 5

(六) (好い思案は無んたらうか)
 平かな類のお悔と少し急ぎ入たる

右衛門と手焙り火鉢を中にして

「ろりやお前が氣分が悪いと云

ない、而し已は是非夜行で歸らな

はならぬ用があるから、お前来て呉

「でも旦那、妾はせうしたんだから」

ふらついていけないですよ、始めて

なにも長く汽車に乗つたからでせず、
 此處の湯は、おたいたいとうき 大層好ですの、お 勇

が丁度好くて、それで香ひもなんに

いすから
衛門の道々尾にもあるよ、勇し

でも極く清潔な湯場だね、別荘の

遠くはないんだ。お前が身体が弱
いから、温泉で近いうち

「東の城を控へてゐる海軍工廠に近づくやうな譯だ」

「まあ、種々御心配なすつて……」

妻は今晩又けはなんだか……道玄
ですけれども身体がなんだか馬鹿の

つて……

いや今晚は連れて行くのは
少し好くなるまで此處で

『居ていよ』
だんを
てうだい

すみませんが旦那さうして頂戴
上りの氣配だとして一旦退いて行く

工場の発展と一足進んで行
 らなく聴かないのであるが別

大事を残してゐるので其方の心配

此處に手放して置くより重いの
でお梅は宿の主人に好く頼んで置

心配す可きと云ふではないから彼

中は一件始末がある爲に是非其今

木
土
水
火
金
木
土
水
火
金

が好いといふ云々都合もあるので、何時にな
 り心よく歸らうと云ふのであつた。
 六右衛門「やまも時間もないから、已は
 起つてしまへ」
 梅「明朝一番になすつたら好いでせう」
 のの上、しかし余程の大事件があるらしい
 右工門が留めて止りさうにないのを知
 じて云ふのも知れぬ
 六右衛門「さうはして居られない、今から
 夜行に乗れば夜明けの直に若くなら
 丁度好い、別荘の方に待たせてゐるもの
 があるからだ」
 お梅「それぢやね静かに」
 お梅「此處の馬は妙だ、客車は梅花の名に
 なつて居る……」
 丁ばう、ほんとに奥様だなんて何の異状も
 だらう……驚き……
 と言ひかけたが人無き室を今更ながら見廻
 して、また
 「嫌だ、みんな暗なんかな」
 俄かに手帳袋を探り、小剪刀を取り出しむ
 が、荒々しく切りし元結はふつりとちぎれ
 て、がっかり落らし丸髷を頭巾に見違
 うと思ひ出した時に俄かに手を鳴して下女
 を呼びたり
 下女「奥様、もう髪を結なますが、
 一此處の髪結さんでは東京の如く手に結
 ませんばい」
 お梅「どうも頭が痛くてしやうがないんか、
 もの差英吉利髷が好きつてよ、若し手
 つてくれれば、解んだから」
 始めて結いたる丸髷に何處やら残る藍の監
 いづれついたやどと見ゆる妻の幾度か涙軍
 の私語ぞ了つたのが、あれは亦好く似合
 英吉利髷、是から何の梅子嬢と呼ばれ
 も阿某の夫人と云れても耻しからざる風
 とどなるもの。



三	三	三	三
二	二	二	二
一	一	一	一

尾崎士郎
 村松道平



ける一人の紳士あり、其連れたる書生に
 事とを命じて是も夜行汽車に起せながら
 ゐ、或やうかな
 暗く暗く、さて机に向つて零紙を延べ
 何事かを急々綴る。

孫 報

早川清純氏 當地滞在在中なりしが昨三
 日一日一週列挙して京城に歸りたる。昨日
 谷垣嘉市氏(本浦新報社主) 昨日歸朝
 途次本館某某社井原邸に投せり
 井上權二氏(朝鮮日日新聞社主) 兩三
 中斷彼の途次香港の管なり
 小平氏の轉脚 此展交任辭朝せられた
 前商會會社登山支店長小平道三郎氏は出
 發以前轉脚記念として草葉牌成學校へ金貳
 拾圓引進會支那圖書館へ金貳拾圓寄贈せら
 れたりと云ふ
 小平商店長の出發 小平元商船會社支店
 長には去る廿九日赴任の途に就かれたり
 永田丸と第一大源丸 第八永田丸は昨
 日午前十時附分乗客八拾五名を乗せて仁川
 より第一大源丸は同日一時附海灣より入港



上陸者及還行者 第八永田丸にての上
 陸者中忠清道行三名馬山浦行一名元山行二
 名大邱行一名京城行一名なり

紙上の口入宿

△金なき人よ思ふの勿れ。
 △金なき人よ思ふの勿れ。
 △金なき人よ思ふの勿れ。

點燈(二)

點燈といふは明く廣く字の如き仕事で
 即ち各商店や其他社宅の瓦斯燈の点火或い
 は瓦斯燈の掃除をする職業で信用と交際の
 二つで立派に成立した仕事なのである、當分
 山港の如きは既に二千以上の月数を有つて
 居るが瓦斯燈を點する家はマアツと六
 七軒はある一月につき掃除料油料點火料
 で毎月五圓位には受負ふ事が出来る若し
 五百圓の華客があるとすると三月を二百五拾
 圓の收入であるが中人夫の月給を十二圓と
 し油料を百圓と見れば百四十八圓の純益と
 見る譯である五百圓の華客をどるといふのも
 は若者の機では無いとするも立派に生活は
 して居るのである自ら登山此の仕事をして
 居るのは唯一人であるから掃除料を
 且つ信用も無い電気燈が通じ増加する

五〇五二
 八二九八
 八二九九
 五〇五二
 八二九八
 八二九九

[illegible]

ばめ印香露葡萄酒
 各國到ル處ニ販賣仕
 候間大に御用仰付ケ
 ラレ度奉希上候
 東京 大慈本店
 草梁 大慈支店
 休市場と出でて直近くあり
 今般當地に支店ヲ設
 ケ鐵道貨物運送營業
 開始仕候
 京坂に川永登道ヲ始メ京釜鐵道主要各
 驛一本支店を出張所ヲ設ケ貨物運送
 貨物揚子御取扱致時東京在在貨物
 鮮魚野菜海産物其他一切委託販賣ノ御
 相談ニ應ジ申可也
 草梁停車場前
 京城稲田組 釜山支店
 送運部
 第壹回臨時
 驛店は時局且鐵道左の方法と以て
 賣上金の内積償を控除し利益の全
 々郵船費致候に付右官報を以て
 〇貳拾兩以上の賣品に對し景品を
 〇景品以上御買取の方は待て新
 〇景品は御來店の上御一覽被下
 明治三十拾年貳月一日 釜山北
 萬打現物御 販大
 請大工道具 下
 大邸の新聞取次
 御好評の朝鮮日報と音の大邸の三大邸
 間連にて京日、報知、奉朝此七次新
 聞の一手取次を致します
 中にも朝鮮日報は如何なる御商賣場
 へ最も必要の新聞と紙面とといひ記事と
 と云ひ代價と云ひ他の朝鮮新聞に比し甚
 だ徳用たゞの御評判と蒙取置ます
 皆なん何なりとお好みの方を告召し下
 さい配達は着次第如何なる雨天にて
 又た夜間にても精々迅速に致して御覽
 に供します
 又た雜誌は目下の處朝鮮評論と日露合
 戦記とが盛て居ります他にも追々と京
 坂地方の分を取り寄りますから津山御
 注文下さい
 電話本、日語本色と取り揃へてあり
 ます御用次第何時でも御購致します
 大邸府西門内
 朝日商會新聞部
 戰勝紀念活字
 全圖戰勝紀念活字數十萬個刊入れ又精
 練なる活版職工數千人と雇ふた以後後
 の御注文は一瞬數千の勢となつて快速
 に圖々美事なる御製可仕國大華とし
 て御用致下す御購中上御購
 釜山西町三丁目自來水局前
 立海社印刷部

<p>西洋料理廣告</p> <p>各位益御清福之段奉欣賀候降て 弊店共四方諸彦之御愛顧を蒙り 日増繁榮仕雖有仕合も奉存候然 る所近來物價も高騰に及び料理 品は是迄通りより出来兼無余隙 一品の價格金貳拾錢に相定め候 就てハ爾來一層念入風味精撰仕 條間何卒舊々倍々御引立之程偏 も奉懇願候敬白</p> <p>新堂 小倉庵</p> <p>西洋料理店 幸町(電話五百拾番) 電話貳拾七番</p>		<p>日本郵船汽船釜山出帆廣告</p> <p>船會社 西行チーフ行 三月六日 二月六日</p>		<p>販賣廣告</p> <p>ある二日より紀元節まで十日間 部と徳兵衛に献金の目的を以て花 陳謝御買求被下廣廣告候也 而紙を以て御姓名を廣告す</p>		<p>大池回漕店</p> <p>荷客取扱所 全 二月十日</p>		<p>村釜山支店</p> <p>撤登丁目四番地 同 回漕店 大阪商船會社 船會社 仁川行 釜山浦本浦山行 木浦群山本行 漢城號 下關群山大阪行 安東丸 油頭丸 群山丸 阿彌丸 漢城丸 手取丸 本浦丸 五洲丸</p> <p>全 二月一日 全 二月二日 全 二月四日 全 二月二日 全 二月二日 全 二月二日 全 二月五日 全 二月六日 全 二月六日 全 二月八日 全 二月八日 全 午前六時出 全 二月十二日 全 二月十日</p>	
--	--	--	--	--	--	---	--	--	--

形 十六割七分

瑞鷹丸 仁川群山附每週三回往復	神代丸 二月二日	崇敬丸 二月三日	大有丸 二月四日	長久丸 二月五日	大坂尼崎船所 金山港琴平町 新辰舍 電話貳拾九番	永田丸 陽 一月三十日 陰 十二月廿七日	浦門丸 全 二月二日	防長丸 全 二月一日	蒼龍丸 陽 二月一日	神代丸 全 二月三日	崇敬丸 全 二月二日	平安丸 全 二月四日	大有丸 全 二月十日	金生丸 全 二月十日	東洋貿易合資會社汽船 三輪商會 汽船 城野洋行汽船 尼崎汽船	三木回漕店 電話八三番	海岸出張所 電話百七十二番	海船釜山出帆廣告 下關大商行 慶尙丸 全 二月一日	泰盛號 全 二月一十一日	寧靜丸 全 二月一十一日	木浦祥山仁川行 荷客取扱所 金山回漕店	大連運輸株式會社釜山出帆廣告 定期運若津丸 二月三 午後六時 廣原唐津行九州鐵道二連路六 中上河灣店方	國中商店 荷客取扱店	馬山浦行 山陽丸 陽 正月一日 陰 正月廿七日	八頭司運送部 午後二時出港荷物締切九時
--------------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-----------------------------------	----------------------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	--------------------------------------	----------------	------------------	------------------------------------	-----------------	-----------------	---------------------------	--	---------------	----------------------------------	------------------------

1000